

第5回 北九州市発達障害者支援地域協議会
「第一分会（支援システム検討分会）」議事録

- 1 会議名 第5回 北九州市発達障害者支援地域協議会
「第一分会（支援システム検討分会）」
- 2 開催日時 令和3年1月25日（火）19:00～20:15
- 3 開催場所 WEB会議（Microsoft Teams を使用）
- 4 出席者
 - (1) 委員（敬称略）
中村貴志（分会長）、山口若菜、安武和幸、米光真由美、大坪巧弥、松延留美 計6名
（4名欠席）
 - (2) 事務局
精神保健福祉課長 安藤卓雄
- 5 会議次第
事例検討（第三回）
【検討課題 保護者支援、地域相談支援】
事例発表① 発達障害者支援センターつばさ センター長 金光律子 氏
事例発表② 子どもネット北九州 代表 安武和幸 氏
- 6 会議経過（意見交換）
各事例発表後、意見交換を行った。

金光委員、安武委員より、保護者支援、地域相談支援について事例発表

【分会長】

お二方には豊富な活動をもとに限られた時間で深い話をしていただき、本当に勉強になった。

私からの質問で、どのような保護者に、どんな時期に支援が必要なのか。全ての保護者に支援が必要かということ、本当はそうでもないと思う。本当に必要な保護者に支援を届けることがまず必要であり、そのような保護者が適切な時期に支援を得られるようにするべきだと思うがいかがか。

【安武委員】

おっしゃる通り、すべての保護者に手を差し伸べるわけではないと思う。しっかり手を握って僕らが先導した方がよい保護者もいれば、少しヒントを伝えるだけで動く方、少し背中を押さないといけいない方もいるので、その見極めが難しい。どうしても専門職としての物差しで見ってしまうので、それもあってお話しなどで、先輩保護者からタイミングであったり、保護者の気持ちを聞くようにしている。当事者ではないので、気持ちが分かるようで分からないとこ

るもあり、そのタイミングというところは本当に分かりにくいですが、まず一步こういう場に来てくれたということが、そのタイミングなのかなと感じている。

【部会長】

取っ掛かりが一つできると、それがその時ということなのかもしれない。
金光委員いかがか。

【金光委員】

私たちはいわば受け身の姿勢というか、相談の連絡があった方に対して関わることが多い。ただ、一旦繋がった方の中に、発信が弱かったり、保護者自身が上手に伝えられない場合もある。そういう場合は、私たちが個性を把握して、こちらから声をかけて細く長く繋がり続けていけるような関わりが必要になる。

【部会長】

安武委員の話で、SNSなどでの情報発信という話があった。これは今の時代とても重要だと思う。常に情報が届くような地域社会を作って、いつでもそこにコンタクトできるスタイルというのにも必要な感じがした。情報発信についてもう少しコメントいただけないか。

【安武委員】

最初は紙媒体で冊子を作って、相談センターや地域の公民館に配ってもらえたらと思っていた。ただ、実際にはいろんな思いを持つ方にとって、そのような情報が目につくことがまずハードルが高いので、SNSという今の時代に合ったやり方だというのがきっかけではある。

ホームページのコメントを書く欄、フェイスブックのメッセージのように、何かあれば匿名でもよいので、そこに一旦書き込んでもらえれば、必要なところに繋ぐことができる。

どうしても紙媒体だと、読み込んでメールに打ち込んだりするのが難しいという方もいると思うので、クリックさえすればメールが飛ばせるというのが、SNSの情報発信では重要な点かなと思っている。

【部会長】

会って話をするというのが一番効果的かもしれないが、コロナ禍という状況もあり、いろんな媒体を通しながら、繋がり方を多様に考えることもとても大事だと感じる。それが地域の支援の網の目をできるだけ狭くしていくことに繋がるのではと思った。

次の話題として出てきたのが、連携とそのためのツール。両委員からそれぞれツールの話があり、改めて今後の連携ツールについて、どういう内容、どういう形、もっと言うと書面だけではなく、いわゆるデジタル化の時代に合った連携ツールなどについて伺いたい。

【安武委員】

まさしくそこが非常に今悩んでいるところ。僕らの相談支援というところでも、やはりデジタル化というのはいつも話題に出る。紙媒体だからこそ伝わる温度感もあるが、やはり迅速かつ効率的というところでは絶対デジタル化は避けられないと思う。

ただ、個人情報の壁や情報流出などの問題が出てくる。例えば子どもネット北九州で出会った保護者や民生委員と繋がってグループラインを作ったり、その中で保護者に許可を得た上で情報を共有したりとかはある。ただ、仕事外でやっているのだから、それが仕事となると、なかなか個人の携帯を使うなど難しい。デジタル化といっても、個人情報の問題などをクリアした上

でうまくいけばとよいと思うが、自分の中でも答えがまだないので、皆さんからヒントがいただければと思っている。

【金光委員】

つばさでは「りあん」を使うことが多いが、ページが非常に多く、保護者が1人で書くのはなかなか難しいので、書くときは大体手伝っている。1回作ってしまえばあとは更新なのでそんなに手間ではないが、最初の一手間が大変で、デジタルに慣れている保護者にとっては、紙にびっしり書くという作業について、今どき？という感覚を持つだろうと思う。そこは課題だと感じている。

【部会長】

最後に、コーディネーターを集約化する必要があるのではないかと思った。それは情報の集約化であり、情報の開示や発信ということだが、フォローアップを考えていくと、ある程度、各機関や各先生方がお持ちのケース情報を、どこかの時点で集約化していく、それをコアにして発信していく、あるいはフォローアップ状態もきちんと確認ができるような、そういうものが必要な時代なのかなと思ったが、いかがか。

【安武委員】

自分は福祉サービスのコーディネーターだが、多分学校であればスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、病院であれば医療ソーシャルワーカーとか、いわゆるコーディネーターの方がたくさん関わっている。そして保護者の方もそれぞれに同じことを言ってもらっていると思う。

コーディネーターもそれぞれの強みや弱みがあるので、多職種連携ということで、コーディネーターたちが毎月集まるような会議などを地域でできたらと思ったことがある。それぞれが持つ事例を持ち寄って、このケースだったらまずこのコーディネーターに振ってみたらよいかもしいないとか、多職種連携合同会議みたいなものを、今後、子どもネットもできたらと感じていた。また、行政の窓口とか、みんなが立ち入るような場所に、コーディネーターが巡回して、気軽にコーディネーターと会える仕組みができればよいのではと思う。自分も時々いろんなカフェに顔を出して、福祉サービスのことだったら聞いてくださいという日を作ってもらったりしているが、巡ったりすることで出会う方もいるので、そういうものが仕組みとしてできると、集約という形でも非常によいのではと感じている。

【金光委員】

実際に関わっている中で、やはりそのコーディネーターの強みというものがある。その方の問題が、何が一番大変なのかというところで、それぞれのコーディネーターが関わる人が多いと思う。また、コーディネーターが非常に上手な人のところに、多くの事例が集まってしまい、とても大変そうだなと思うこともある。いろんなコーディネーター機能を持つ人たちが集まって情報共有をしながら、自分たちの役割を見直す、俯瞰的に見ることができるよう場というものがあると確かにいいたいだろうと、安武委員の話聞いて共感した。

【部会長】

他の構成員の方、ご意見やご質問いかがか。

【委員】

安武委員のスライドで、A4の1枚で簡潔にまとめたトリセツが素晴らしいなと思って勉強になった。プライドを持たれているベテランの先生にトリセツを渡す際、文言にかなり気を遣ったとあったが、具体的にどのような文言を意識して使ったのか伺いたい。

【安武委員】

学校の先生はその子との関係ができていて、理解しているという前提のもと作るというのがあった。「〇〇君と信頼関係を作るためのトリセツ」というタイトルだが、最初は「僕のことをもっと分かってよ」のような感じだった。ただ、それだと先生から見ると、分かっていないということが伝わるかなと思ったので、先生はすでに十分理解されていると思うが、もっと今から信頼関係を作ることができて、他の事業者はこれをもとに信頼関係を作っている、ということ伝えるために、この文言を変えた。

【委員】

総合療育センターでも外来保護者向けに「初めてコース」というものを行っているが、病院の先生が実施するものや、普段からあまり親密な関係でもない先生の保護者勉強会などは、保護者からすると非常に敷居が高いようで、初めて参加する方がよく言うのは、興味はあったが申し込み切らなかったという方が非常に多い。その中で安武委員が行っている、カフェでリラックスしながら座談会みたいな感じで話ができる場合は本当に貴重だと思う。例えばそういう座談会で、療育センターの「初めてコース」とか、つばさの勉強会もあるよみたいな、ステップを踏んだ上での紹介があると、保護者も来やすいのかなと思った。

【部会長】

安武委員がされているような地域交流事業というか、地域で、子供、大人、高齢者も含めて、いろんな関わりの中で少し相談してみようかなとか、あの人の話を聞いてみたいとか、日常の中にいずれ支援に繋がるような最初のステップがあればよいのではと、話を聞きながら思った。

【委員】

2人のお話は保護者向けで、とても親身で非常によいと思った。つばさにもお世話になっているが、安武委員の子どもネット北九州の活動も素晴らしいと思った。事業者の人と保護者が集まって、学びの場だったり遊んだり相談できたりということだったが、それは関係者、放課後等デイサービスなどを利用している人が集まっているという感じなのか。

【安武委員】

お話会に関しては、日頃の子育てであったり、何か気になっていることがある保護者に集まっていたらいいので、全員が福祉サービスを利用している方でもないし、中には自分の姉の子供のことが気になるから来たという方もいた。

【委員】

オープンにお知らせなどは出しているのか。

【安武委員】

子どもネット北九州のホームページとフェイスブックページ、あとは保護者が運営されているカフェが小倉にあるので、そのカフェのインスタであったりとか、常にSNSだけで発信し

ている。あと口コミで来た方が、数珠繋ぎで紹介してくれたりする。もう2年ぐらい、定員が一杯になるぐらいで続いている。一杯といっても5人とか少人数でないと敷居が高いという保護者もいるし、その場に来てまず気持ちを話すだけでも非常にハードルが高いと思う。だから少人数にはこだわっているのと、支援者も指導したりとか、こうなさいということは決して言わないようにしている。まずはしっかり傾聴することを前提として、支援の方にも入ってもらっている。

【委員】

精神障害者のための「アヴァンセ」という相談会が2ヶ月に1回あり行っている。医師、相談支援者、福祉関係者、当事者、家族が集まってそれぞれ気になることを質問して、気が付いた人が答えるという相談会で、取っ掛かりとして、そんな感じで集まりたい人が集まれる場があればとてもよいなといつも思っていて、子どもネットのお話会がそれに近いなと思った。

一丁目の元気の相談カフェみたいな感じの、もっといろんな人が参加するような相談会が、地区ごとに開催されて、支援のあり方を学校の先生とかにも来てもらって相談できればよいのではと、保護者的には思っている。

保護者は一番困っている時に相談に行くので、誰がどうすればよいかという情報の共有というか、ネット上で、フローチャートみたいに困っていること、どういう場面で困っているとか、今どういったところと繋がっているというのをランダムに記録して、それを見た人が答えてくれるシステムがあっても面白いかなと思った。

【部会長】

何かヒントがもらえたような気がした。

傍聴者からご意見いかがか。

【傍聴者】

自分自身がコーディネーターをしつつ、アセスメントをして、保護者や園の先生、学校と繋がる機会があるので、お2人の大変貴重なお話を伺えてとても勉強になった。

私が療育をしていく中で難しいと思うのが、学校の先生との連携の中で、自分が実際に繋がれないので、保護者を通して学校の先生に連絡してもらわないといけない場面がある。保護者の方にこう伝えたら学校にうまく伝わるみたいな、情報を直接ではなく間接的に伝える際に、何か良い方法とかポイント等あれば教えていただきたい。

【金光委員】

テクニック的なことになるが、最初に先生に対する日々の感謝を伝えて、「先生のおかげで、こういうことができるようになりました」とか、それから先生にお願いしたいことを一つか二つに絞って伝えるということを、保護者にアドバイスさせていただく。

【安武委員】

最近使っているテクニックは、保護者や周りの支援者が、先生に教えてもらおうというスタンスで関わっている。

そもそも保護者は、「分かってくれないからこういうふうにしてください」とお願いすることが多分多いのではないかなと思う。プラスアルファで、僕らもお願いしてしまうと、かなりの負担だと思うので、逆に先生の持っているスキルやノウハウを僕らに教えてくださという入り方をしている。

そうすると先生も気持ち悪くはないので、こういうことをやっているよと教えてくれるので、僕らはこういうふうにやっていて両方いいですねという形で、なるべく僕らが行っている情報も中に入れるということをしている。

【部会長】

傍聴者の方、他にいかがか。

【傍聴者】

前職のときに、児童発達支援事業所の通園で親父の会というのをやっていて、いろんな繋がりだったり、子供への思いだったり、療育の昼間の場で話せないことを、そういう茶話会的なところで話ができたとしたのはあった。

あと、私も学校の先生に話す際は、安武委員と全く同じことをしていた。「少し状況を教えてください、先生も困っているんですね」という感じで、先生も困っていて、何とかしようと思っている先生も多いと思う。「私は教員ではないですが、児童通園のときにはこんなこともしてみました、もしかしたらこんなふうに考えているかもしれませんね」みたいな入り方をしていた。

【事務局】

本日はまだまだ話し足りないぐらい非常に充実した内容で、これからまとめの議論をしていく上での重要なポイントを改めて挙げていただいたかなと思う。

すでに構成員の方々にはチャットやメールでお知らせを流させていただいたが、こういう状況なので、次回の会議は一旦中止をさせていただいて、2月の下旬に組んでいた日程に議題をスライドする形で開催して、追加日程をそのあと組んでいきたい。具体的には3月になろうかと思うが、今後に繋がるシステムづくりの話とかも今日の話の踏まえて、全体を振り返りながら話す時間も取りたいと思っている。これからの地域支援に繋がる話をぜひここでしっかり組み立てていきたいと思っている。2月と3月の日程調整は改めてさせていただきたい。

【部会長】

今後も継続的にしっかりやっていくってことを言っていた。それでは本日はこれで閉会させていただく。